

群馬縣道路愛護日實施に關する概要

群馬縣土木課長

昭和十六年十月四日五日の兩日を道路愛護日と定め縣下一圓に互り道路愛護作業を實施せり、其參加團體數五九五團體、之が就役人員十四萬餘名に達し、而して作業延長は國府縣道一、二〇〇料、市町村道三〇〇料に及び其の實績又豫期以上の成果を收め第一回の催として誠に意を強くせり。

從來縣に於ては縣民全般に道路に關する公共心の涵養並に道路愛護の思想普及に力め、昭和十一年に道路愛護獎勵規程を制定し之が積極的獎勵に意を用ひ回を重ねること六回、漸く相當の成績を收めたるも未だ愛護團體に加入せざるもの尠からざる状態にして豫期の目的に達するに至らざるを以て之が完璧を期するは一に道路愛護の精神を強調喚起し以て之が成果を擧揚するの要あるを以て十月四日、五日の兩日を道路愛護日と定め縣下一齊に道路愛護作業を施行するに至れり。

當日は秋晴の好天候に恵れ、早朝より國民學校の兒童を初め隣保班の隣既に古稀を迎へられたる御老人迄が各自鎌、鍬、帚等を

持參し、指導者の號令に従ひ路傍の草刈、側溝浚ひ、路面に土、砂利の敷均し、將又落土石の取片付其の他交通障害物整理等、我等の道路は吾手で修理すると云ふ心強き決心で一鍬々々に力強く和氣漂ふ統制ある作業である。

左に二、三作業狀況を列記すれば、

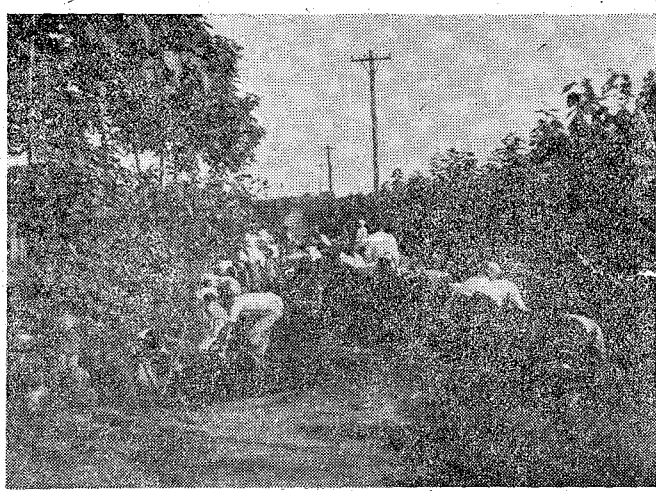
一、高崎西部合同自動車有限株式會社は三臺のトラックを以て砂利運搬し、阿能川鑛山にては自家用トラックを以て土砂運搬に助勢す。

一、淺野カリーット群馬工場にては職員、職工を一團として道路愛護日のみに止まらず延長一、〇五三米の間を徹底的修理をなす爲自費を投じて砂利を購入し一週間に互り作業す。

一、利根郡片品村にては毎月一日を期し、毎戸一人以上稼業に支障なき様早朝より道路修理を一ヶ年以上繼續施行す。

一、男子中等學校中には教員並に全生徒が上半身裸體となり、眞に流汗の愛護作業は臨戦下の頼もしさを痛感せり。

右述の如く十四萬餘名の老若男女の此の作業に對し、縣は總務、經濟、學務の各部長並に學務、保安兩課長及土木課係員一同が各

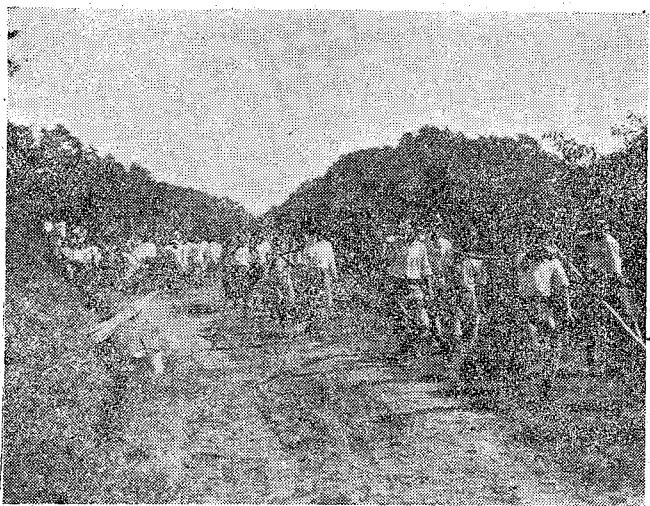


北甘樂郡富岡町國民學校兒童の作業

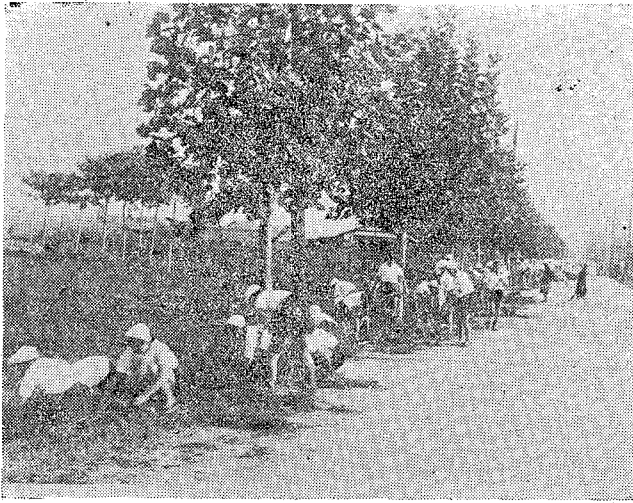
々現場に出張し之が激勵並に感謝の意を表せり、又内務寮育よりは特に樋浦内務技師の派遣を見るに至れり。

各土木出張所別掲示すれば、

前	所	各	延
橋	土木出張	土木出張所別掲示すれば、	長
	名	國體數	市町村道
		人員	國縣道
			六五
			四三
			六五
			四三



立富岡町中學校生徒の作業



縣立高崎高等女學校生徒の作業

高崎	五六	一七、一三五	五八	四
澁川	五〇	八、六六八	一〇九	四
藤岡	六五	一五、六一〇	二三〇	三一
富岡	四九	二〇、四二八	二一二	四九

恒久的本運動趣旨に協力を乞ひ以て本運動の隆盛を期待す。

感謝狀

團體名

第一回道路愛護日ニ際シ克ク其ノ趣旨ヲ協贊シテ道路作業ニ從事シ其ノ成果ヲ收メタリ
仍テ茲ニ感謝ノ意ヲ表ス

昭和十六年十月五日

群馬縣書記官從五位勳六等 伊藤正良

安中	三一	九、五五六	八四	一
中之條	三九	七、二三四	五六	三〇
沼田	一〇六	一一、五三九	一三〇	一一一
伊勢崎	一六	六、〇二〇	四二	一
太田	二九	一一、二三二	七三	一
桐生	五〇	七、九〇一	五五	一九
館林	四三	一、二〇七	九四	一
計	五八五	一四〇、三一七	一、二〇九	三二二